

サントリーグループの
東日本大震災
復興支援活動

SUNTORY
東北サンさんプロジェクト
since 2011

みらいチャレンジ プログラム

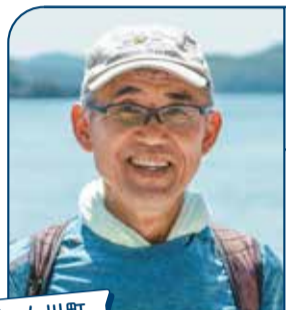


私たちサントリーグループは、
これからも岩手県・宮城県・福島県に赴き
復興に向けて歩み続ける
地域の方々とともに東北を盛り上げたい。
さらに、東北で新しい挑戦をする人を応援したい。
そんな想いから「みらいチャレンジプログラム」を
スタートさせました。第3期は、応募総数208件の中から
36件の助成先が決定しました。この紙面では県内の
助成先団体・個人とその取り組みについてご紹介します。

第3期

助成先団体・個人

宮城で新たなチャレンジに取り組もうとしている団体・個人への助成先が決定しました！



女川町出島トレイルルート
整備事業

女川湾には出島(いずしま)という人口69人の離島が浮かび、島民長年の夢であった本土と島を結ぶ橋が来年12月に完成します。その完成前に、放置された人工林の間伐や震災ゴミの撤去などを行い、島の美しさを満喫できるトレイルルート(遊歩道)を整備します。

女川町
一般社団法人
女川未来会議出島プロジェクト
代表理事
高野 信さん



石巻の人々と共に歩み、
医師を育てる

石巻市雄勝診療所で研修を行う研修医・大学生に対し、住民との交流を通して僻地の生活への理解を深めることを目的とした体験型研修の受け入れ態勢を構築します。地域の健康づくりについて住民自身が考え、行動するための創発の機会にもしたいと考えています。

石巻市
末永 拓郎さん



自然体験・芸術体験・
物語体験を通じた子供たちの
未来プロジェクト
～東北から次世代リーダーを育てる事業～

現代に生きる子どもたちに、人との交流や自然との触れ合いを通じて、心も身体も開放して遊んだり、物語や演劇の世界を自ら体験したりする機会づくりに取り組みます。そして何より東北の地を愛し、それを世界に発信できるような子どもの育成を目指します。

塩竈市・仙台市
榎森 保乃さん



牡蠣養殖場から発生する
竹廃材を活用した環境教育

松島湾の牡蠣養殖場から発生する竹の廃材を材料に炭を焼き、できた竹炭を生活環境の改善のために生かしながら、地域とその環境について学んでいく体験型環境教育の取り組みです。廃竹で炭焼きを楽しみながら、地域&地球の課題解決を目指します。

東松島市
西城 潔さん



津波常襲地に生きる知を紡ぐ
一越地区・
震災復興記録誌編さん事業

震災から12年の出来事と、それにもなう地域コミュニティの変遷について住民と外部支援者とともに語り合い、その内容を復興記録誌として編さんします。この事業で行うのは復興検証の一つであり、地域のアイデンティティ再構築へ至る「生きてきた」記録です。

気仙沼市
坂口 奈央さん



東北のジャズの歴史をたどる
地域活性化事業

東北におけるジャズの歴史的な文化遺産に、AR(拡張現実)技術、オンライン配信、リアルイベントを組み合わせ、地域住民や観光客が町に集まるきっかけを作ります。これにより、地域の新たな魅力を発見・発信し、未来に向けた文化芸術の創造・発信の基盤づくりを行います。

仙台市
一般社団法人
東北シティジャズヒストリー
事務局長
田邊 正樹さん



いただきます！
石巻インディーズフィッシュ
～おでかけ編～

食べにくい、小さくて扱いづらいなど市場に出荷されない未利用・低利用魚を「インディーズフィッシュ」と名付け、Reborn-Art Festivalならではの視点で広く発信したいと考えています。石巻の浜や漁業関係施設へ実際に足を運び、その存在を学ぶイベントを行います。

石巻市
一般社団法人
Reborn-Art Festival
事務局スタッフ
志村 春海さん



銅細工の技術等に関する
アーカイブ動画の制作
オンライン講座及びリアル体験
ワークショップの造成・開催

江戸時代より仙台の文化や暮らしに根差してきた「銅細工」をテーマに、銅製品の制作に携わる株式会社タゼンの協力の下、製造技術などに関するアーカイブ動画の制作やライブ配信によるオンライン講座、実際に制作体験できるワークショップなどを行います。

仙台市
早川 欣哉さん



南三陸町・若手漁師による
消費者との交流を通じた
サステイナブルシーフードの魅力発信事業

シェフも在籍する若手漁師グループが環境に配慮したサステイナブルな取り組みによって収穫した海産物とそのストーリーを伝えながら、自らお客さんに振舞い交流を深めることで、地域海産物のファンおよび町の関係人口を増やし、浜から地域の活性化を目指します。

南三陸町
戸倉Sea Boys
代表
後藤 伸弥さん



地域で育てよう、地域で見守ろう
ママパパ子育て応援プロジェクト

東北の未来を担う子どもたちが健全な家庭養育環境で成長することができ、子育て中の母子、父子、家族が孤立することがない仕組みづくりを目指します。そのために地域交流会やセミナー、カフェなどを通じ、地域で育て地域で見守る子育てで共助の考えを醸成します。

仙台市
特定非営利活動法人
子どもの村東北
理事長
須佐 尚康さん



12th Anniversary
にぎわいづくり記念事業
「にぎわいづくりはまちづくり」

室町時代から地元商人たちがまちづくりに寄り、地域コミュニティを育みながら、歴史文化の継承に重要な役割を果たしてきた加美町中新田の商店街。活動12年目となるにぎわいづくり委員会のこれまでに振り返りながら、時代に即した商店街ビジョンを創出します。

加美町
中新田地区商店街
にぎわいづくり委員会
委員長
高橋 庸介さん



Onagawa Global Camp

東北の中学生が多様な背景を持つ同世代との交流を通じて、世界の文化や価値観を知り、未知なる世界への好奇心と想像力を育む体験学習プログラムです。外国人留学生や日本大学生、参加者同士などと一緒に共同生活や対話、自己内省する機会を作ります。

女川町
株式会社 Beyond Lab
代表取締役
野地 雄太さん

宮城県審査会が6月2日に開催
今年も多彩な取り組みが集結

宮城県の助成先を決定する審査会が、仙台市青葉区の河北新報社で開催されました。宮城学院女子大学の宮原教授と東北学院大学の柳井教授、河北新報社の鹿又常務取締役、日本フィランソロピー協会の高橋理事長らが審査員として集まり、応募総数76件について1つ1つ議論を進めて選考しました。



「みらいチャレンジプログラム」概要

- 対象事業…岩手県・宮城県・福島県で実施する地方創生や地元活性化を目指す新たな活動
※個人・団体は不問
- 対象期間…2023年7月1日から2024年6月30日の1年間の活動に対する支援
- 審査基準…1.地域社会に貢献する活動であること。
2.活動の継続性・発展性・チャレンジ精神・地元愛が感じられること。
3.申請事業を実施する地域以外へも影響を与えるような活動であること。

応募総数208件

【宮城県】76件【岩手県】44件【福島県】88件

「みらいチャレンジプログラム」とは

サントリーグループの東日本大震災復興支援「サントリー東北サンさんプロジェクト」の一環として、東北の未来づくりのために、岩手県・宮城県・福島県で地方創生・地元活性化を目指して挑戦する個人・団体を応援するプログラムです。

サントリーグループの復興支援活動
東北サンさんプロジェクト

サントリーグループは、2011年に東日本大震災直後から被災地の早期復興を願い、「漁業の復興支援」「未来を担う子どもたちの支援」「文化・芸術・スポーツを通じた支援」「チャレンジ・スポーツ支援」の4つを活動の柱として、総額108億円の規模で復興支援活動に継続して取り組んでいます。



審査員総評コメント(以下敬称略)



応募者の皆さんが込めた熱い思いを振り返りながら、12件選出できたことに喜びを感じています。今回は個人の応募も多く、これまでとは違った様相も見えてきたと感じています。どれも素晴らしい内容の取り組みを取り上げられて満足しています。

宮城学院女子大学現代ビジネス学部教授
宮原 育子



初年度の応募は震災からの復興を意識した取り組みが多かったのですが、今回は地域の将来につながるような内容が目立ちました。選ばれた12の事業がこの助成によって発展をたどり、新しい未来に踏み出す手がかりとなることを願っています。

東北学院大学地域総合学部教授
柳井 雅也



地域の特性、個性を知り尽くした取り組みがいくつもあり、審査を通じて宮城県の魅力を改めて感じました。被災地に関わらず地方は数多くの課題に直面していますが、これだけのエネルギーがあれば地方の未来はまだまだ明るいと感じました。

株式会社 河北新報社 常務取締役
鹿又 久孝



今回、選ばれた応募内容はどれも良い活動にしたいという強い意志が感じられました。その思いに応え、伴走していく気概を抱いて審査に臨むサントリーグループの皆さまの姿勢からも、素晴らしい取り組みであると思っています。

公益社団法人日本フィランソロピー協会理事長
高橋 陽子



「みらいチャレンジプログラム」を通じて、宮城県の皆さまの地元愛があふれる活動を知ることができました。サントリーグループはこのように地域に根差した活動に対して、これからも皆さまとともに息の長い応援の輪を創っていききたいと思います。

サントリービバレッジソリューション株式会社 東北支社長
稲葉 通